

中区地域子育て支援拠点事業 5か年のまとめ 実施概要

対象事業	中区地域子育て支援拠点事業
対象期間	平成28年度～令和2年度(5か年)
事業の実施者	公益財団法人 横浜YMCA
	中区子ども家庭支援課
実施目的	<p>1 今期5か年の事業を振り返り、成果や課題、今後の方向性などを整理します。</p> <p>2 市民協働事業の実践を通じて経験を蓄積し、その後の市民協働や市民協働事業に活かしていくため、また、当該共同事業の当事者だけでなく、多くの市民等の協働への参加意欲を高めるため、当該評価を公開し、透明性を高めます。</p>
実施時期	令和2年7月
実施について	<p>拠点事業は、区と運営法人との協働により進めています。</p> <p>毎年度、事業ごとに定めている「目指す拠点の姿」に沿って役割分担し、行動計画を立て、年度末には「振り返りの視点」に沿って取組の振り返りを行いながら事業を進めてきました。また、中間期には「有識者を交えた事業評価」を実施し、事業の運営・管理にフィードバックして拠点運営状況の向上を図っています。</p> <p>今回は、中間期に行った「有識者を交えた事業評価」にその後の事業振り返りを加え、今期5か年のまとめとしました。</p>
	<p>【参考】 拠点の7事業</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 乳幼児の遊びと育ちの場及びその養育者の交流の場の提供(親子の居場所事業)</li> <li>2 子育てに関する相談及び関係機関との連携に関すること(子育て相談事業)</li> <li>3 子育てに関する情報の収集及び提供に関すること(情報収集・提供事業)</li> <li>4 子育てに関する支援活動を行う者同士の連携に関すること(ネットワーク事業)</li> <li>5 子育てに関する支援活動を行う者の育成、支援に関すること(人材育成、活動支援事業)</li> <li>6 地域の住民同士で子どもを預け、預かる支え合いの促進に関すること (横浜子育てサポートシステム区支部事務局運営事業)</li> <li>7 子育て家庭のニーズに応じた施設・事業等の利用の支援に関すること(利用者支援事業)</li> </ol>

1 親子の居場所事業

目指す拠点の姿	(参考)2期目振り返りの課題	自己評価(A~D)	
		法人	区
①利用者を温かく迎え入れる雰囲気のある場になっている。	・これまでも利用者間の関係づくりに積極的に取り組んできたが、利用者が入れかわり続ける中で引き続きニーズに耳を傾けながら取り組みを継続する必要がある。 ・日頃からの関わりや事業でのアンケート等で把握した利用者ニーズを共有することだけにとどめず、事業へと反映させていくことが必要。	A	A
②多様な世代、性別等の養育者と子どもが訪れる場になっている。		A	B
③養育者と子どものニーズ把握の場になっている。		B	A
④親(養育者)自身が親として育ち、また子どもが育つ場となっている。		A	A
<b>評価の理由(法人)</b>			
(主なデータ) 中区出生数: H30年 991人 ・ H27年 999人 【実績統計】 一日の平均利用者数: R1年度 子ども38人、大人36.2人 H27年度 子ども44.5人、大人43.5人 中区民の利用率: R1年度 80.4% ・ H27年度 79.6% 父親の利用 : R1年度 757人(月平均 69人) ・ H27年度 693人(月平均 58人) 【H30年度ののんびりんこに関するアンケート(※1)】 のんびりんこの認知度: 88.3%(446人) 利用目的(344人回答): 1.子どもを遊ばせる91%(313人) 2.子育ての情報を得る33.4%(115人) 3.リフレッシュ23.5%(81人) 利用後の感想(344人回答): 1.息抜きやリフレッシュが出来た58.1%(200人) 2.子育てに役立つ知識や情報が得られた52%(179人)			
<b>①職員の下草な対応</b> ・4か月児健診や地域で実施されている赤ちゃん学級などに職員が訪問し、利用のきっかけとなるよう情報提供を行っている。 ・初来館者へ丁寧な関わりが出来るよう、意識して声を掛けたり、利用者同士の交流が図れるよう工夫して職員が関わっている。 ・拠点で実施する沐浴体験時に、これから出産を迎える夫婦と乳児が触れ合う事が出来る機会を作り、産後の利用につながるよう促している。			
<b>②多様な世代、国、性別の方が交流する場として</b> ・子育て応援ボランティア説明会を毎月実施し、ボランティアの受入れを日常的に行っている。また、「よこはまシニアボランティアポイント」の対象施設として登録し、シニア世代のボランティアや中学生ボランティアを受入れ、多様な世代の交流が図られる場となるように取り組んでいる。 ・外国につながる親子の対応について、多言語の案内や登録用紙を用意している。また、職員が意識的に関わり、利用者の協力も得ながら対応をしている。 ・土曜日に父親や家族が参加出来る事業を拠点の内外で実施し、父親も子育てに積極的に関わる事が出来るようにしている。 ・運営法人との協働の取組みを通し、日本語学科の留学生、専門学校生、放課後児童クラブの児童、小規模多機能施設の高齢者など、多様な国、世代の方々の交流が図れている。			
<b>③利用者の声を活かした対応</b> ・事業実施時にアンケートを行い、次回の開催事業に活かしている。 ・毎日の職員同士の振り返りで利用者からの声を共有し、日々の対応に活かすと共に事業に活かしている。また、地域に職員が出向いた際に、地域の親子や支援者の声からニーズを把握し、日ごろの対応や事業に活かせるよう職員と共有している。 ・利用者のニーズから、区こども家庭支援課専門職や関係機関の協力を得て事業を実施した。(ダウン症児の親子の会など) ・利用者の声を活かしながら、外出機会の少ない乳児を対象にオンラインを活用した支援の充実を図った。			
<b>④育ちにつながる体験と関わり</b> ・静かな遊び(造形遊びなど)を行い、子どもが遊び込める環境の工夫をしている。 ・子育て中の悩みを軽減出来るよう専門家による気軽な相談を広場で実施すると共に、子育てに活かせる知識を学べるよう「離乳食講座」「パパ講座」「たくまっ子クラブ」「子どものむし歯予防」「食物アレルギー」などの子育て講座を実施した。 ・親同士の支え合いの活動として、利用者の特技や経験を活かした「のんびりんこサポーターズ企画」を実施し、利用者同士が活動を楽しむだけでなく、交流や情報交換を行いながら活動を行う事で、みんなで子育てを支え合う事の大切さを知る機会を作っている。 ・子どもへの対応の仕方(子ども同士のトラブルや癩癩など)を、職員が子どもへの接し方を通して伝えるようにしている。また、子育ての当事者同士がお互いの考えや思いを共有する「ホッとおしゃべりサロン」を実施し、親同士の関わり(先輩ママとの交流)の中から自ら気づく事が出来るように取り組んでいる。			
(※1) H31年1~2月 乳幼児健診(4か月、1歳6か月、3歳)受診者(305人)及びのんびりんこ利用者(200人)計505人を対象に実施。			

**評価の理由(区)**

- ①4か月児健診や赤ちゃん学級など親子の集まる場に拠点職員が出向き情報提供し、親子とかかわる機会を設けることで、保護者の参加へのハードルを下げ、より多くの利用に繋げることができた。
- ②妊娠期から拠点を認識し利用できるよう、両親教室や母子手帳交付の場面で周知を行った。また、外国人や多胎児、ダウン症児の親子に向け個別に案内を行うことで、多様な親子の利用に繋がった。
- ③拠点とともにアンケート結果について共有することで、多角的な視点でニーズ評価と事業改善を行うことができた。また、多様なニーズを把握できるよう、関係者連絡会などの参加の場を提供できた。
- ④広場の相談内容やよりよい拠点環境の改善について、定例会で共有し柔軟な相談や対応ができるよう随時助言している。母子保健事業等について拠点と共有することで、親育ちや子育てを支援する場としての具体的な対応方法を検討できた。

**拠点事業としての成果と課題**

(成果)

- ・小学生から高齢者まで様々な世代の方が訪れ、交流が出来る場となっている。
- ・利用者のニーズから新たな事業を実施し、定期開催へとつながった。また、実施においては様々な関係機関と協力しながら行っている。
- ・職員が丁寧に対応することや利用者同士の交流を促すことで、子育てにおいて大切にしたい事を親自身が気づき学ぶ場となるように取り組んでいる。

(課題)

- ・外国につながる親子が孤立しないよう職員が利用者と共に意識的に関わるようにしているが、より身近な居場所の一つとして寄り添った対応が出来るよう取り組んでいく。
- ・妊娠期からの利用がさらに促進出来るよう、子育て世代包括支援センターの取組みを通して区と共に取り組んでいく。
- ・オンライン支援については、「新しい生活様式」も見据え、より一層工夫をしていく必要がある。

**振り返りの視点**

- ア いつでも気軽に訪れることができ、安心して過ごせるような配慮、工夫をしているか。
- イ 居場所を訪れる様々な利用者(養育者、子ども、ボランティア等)の間に、交流が生まれるように工夫しているか。
- ウ 多様な養育者と子どもを受け入れる配慮や工夫をしているか。
- エ 養育者と子どものニーズを把握するための工夫をしているか。
- オ 把握されたニーズを区こども家庭支援課や関係機関と共有し、ニーズに応じて必要な支援や新たな事業、事業の見直しにつなげているか。
- カ 子どもの年齢・月齢に応じた遊びの環境が整備されているか。
- キ 子ども同士の関わりが尊重され、子どもが健やかに育つために必要なことに養育者が気づき、学ぶ機会を提供する場となっているか。
- ク 養育者同士が相談、情報交換し、課題解決し合う仕組みや仕掛けがあるか。

2 子育て相談事業

目指す拠点の姿	(参考)2期目振り返りの課題	自己評価(A~D)	
		法人	区
①養育者とスタッフとの間に安心して相談できる信頼関係ができ、気軽に相談ができる場となっている。	・拠点職員は利用者にとって身近な存在でありつづける事。同時に、日々変化する情報や多様化する相談内容に対応することの両面性が求められる。引き続き、研修に参加するなどの研さんを積むとともに、職員間および区と情報共有や対応の検討を行い、スキルアップを図る必要がある。	A	A
②相談を受け止め、内容に応じて、養育者を関係機関につなげている。また、必要に応じて継続したフォローができています。		A	A

評価の理由(法人)

(主なデータ)  
 【H30年度のんびりんこに関するアンケート】回答者数:505人  
 子育てに関して困っていること:1.しつけや注意の仕方35.2%(178人) 2.食事のこと29.5%(149人)  
 【相談事業実績データ】R1年度(ひろば相談 959件・個別相談 393件)  
 ひろば相談:子どもの生活 27% ・子どもの発育及び子どものしつけ 15% ・就園就学 12%  
 個別相談: こどもの生活 47% ・親自身及び子どもの発育 13% ・就園就学 9%  
 【R1年度ひろばでの気軽な相談の実施回数】  
 保育士:週1回、栄養士・助産師:月1回、カウンセラー:男性月2回、女性月1回、保育・教育コンシェルジュ:4-10月(月2回)

①身近な支援者として寄り添った対応  
 ・スタッフは身近な支援者として親子に寄り添い、傾聴の姿勢で関わると共に課題に対して、親子の最善の手段を一緒に考えるよう対応している。  
 ・日々の振り返りで情報共有や対応の仕方について確認を行い、それぞれのスタッフが同様の相談に対応できるようにしている。  
 ・専門家(保育士、栄養士、助産師、カウンセラー、保育・教育コンシェルジュ等)による気軽な相談を定期的実施し、ひろばで子どもを遊ばせながら相談をする経験を通して、必要時に養育者自身が専門機関に相談出来るようにしている。  
 ・子育て中の些細な悩みや身近な課題(感染症や就園など)の解決が図られるよう、手に取りやすいように時期に合わせて資料の配置を変更し、情報提供を行っている。  
 ②相談を受け止め継続的な関わりが持てるように  
 ・各種専門機関の理解を深めるために施設訪問を行うと共に研修を受講し、関係機関や施設の役割、機能を学び相談対応に活かしている。また、スタッフの知識、技術の研鑽が図られるよう傾聴についての研修や関係機関の事業について情報共有を行っている。  
 ・相談を受け止め、保護者へ丁寧に関わりながら、必要に応じて地域資源や関係機関・利用者支援事業につなぐとともに拠点利用時も継続したフォローが出来るように関わっている。

評価の理由(区)

①相談内容に応じた職員(保育士、栄養士、保育・教育コンシェルジュ等)の派遣を行い、多様なニーズへの相談に対応できるよう調整を行った。また、母子訪問や個別対応を通して拠点の利用を促し、必要時は同行するなどして直接つなぐことで、支援ケース等の育てにくさを感じている親子が気軽に拠点を利用できる工夫を行った。  
 ②・拠点と関係者が連携できるように関係会議への出席を促した。  
 ・定例会にて事例を共有し、専門相談が必要と思われる利用者についてはサポートできるよう必要な助言をし、地区担当保健師や関係機関へつなぐ等、連携を図った。  
 ・知識、技術の研鑽のため、拠点スタッフへ向けて個人情報、感染症および母子保健事業の研修を行い、相談環境や相談対応の方針について拠点とともに考えることができた。

拠点事業としての成果と課題

(成果)  
 ・スタッフは研修を活かし、傾聴の姿勢で寄り添った対応が出来るようにしている。  
 ・日々の関わりの中から身近な課題や疑問が解決出来るよう情報提供やひろばで実施している「専門家による気軽な相談」につなげている。  
 ・相談を受け止め、地域資源や関係機関の情報提供を行い、必要に応じて利用者支援事業につなげている。また、継続的に見守りを行い、ひろば利用時には適切な対応が出来るようにしている。  
 (課題)  
 ・日々変化する情報や多様化する相談について、スタッフのスキルアップが図られるよう継続的に研修の機会を設ける。  
 ・利用者への対応の仕方や利用者支援事業への連携について、スタッフで共有しながら、より適切に判断できるように取り組む。

振り返りの視点

- ア 養育者が相談しやすい仕組みづくりや工夫をしているか。
- イ どのような相談に対しても傾聴し、相手に寄り添う相談対応を行っているか。
- ウ 相談内容の傾向を把握し、振り返りを行い、望ましい対応の検討や共有に努めているか。
- エ 区子ども家庭支援課との連携のもと、各種専門機関の役割を把握し、養育者への効果的な支援を行うための連携、連絡体制を作っているか。
- オ 専門的対応が必要と考えられる相談について、区子ども家庭支援課と相談しながら適切に対応しているか。
- カ 関係機関とつながった後にも、役割分担に応じて、継続的な関わりを持っているか。

3 情報収集・提供事業

目指す拠点の姿	(参考)2期目振り返りの課題	自己評価(A~D)	
		法人	区
①区内の子育てや子育て支援に関する情報が集約され、養育者や担い手に向けて提供されている。	・既存の施設との関係性や新たに構築した幼稚園との関係を定着させ、さらに深めていく必要がある。 ・利用者による当事者目線での情報を把握し、区と連携して子育て環境の改善につなげていく必要がある。	A	A
②子育てや子育て支援に関する情報の集約・提供の拠点であることが、区民に認知されている。		B	B
③拠点の情報収集、発信の仕組みに、養育者や担い手が積極的に関わっている。		A	A

評価の理由(法人)

(主なデータ)  
 【H30年度ののんびりんこに関するアンケート】支援関係者アンケート(109人)  
 のんびりんこの「情報収集提供事業」について知っている 90.8%  
 【中区幼稚園説明会】H27年度から毎年実施:R1年度 132組参加(5年間延べ747組参加)  
 【拠点利用のきっかけ】H30年度拠点統計データ(1227人):友人・知人から31.2%・市・区の広報誌、チラシ21%・区の紹介17.4%

---

①関係施設や団体との連携  
 ・幼稚園協会中支部の協力を得て幼稚園情報を収集し、利用者へ提供している。また、毎年三者(幼稚園・区・拠点)共催で幼稚園説明会を実施している。  
 ・各施設や団体の子育て情報を収集し「中区子育て応援カレンダー」を毎月発行している。また、「中区すくすくモバイル(※1)」や「のんびりんこ通信・サポーターズ通信(※2)」等を通じて来所が困難な方へも情報が届くようにしている。

②地域に出向いて拠点機能の周知  
 ・新規開設園を含む幼稚園や保育園へ出向き、拠点事業の紹介と共に園情報を収集し、連携をしていく中で拠点の利用が促されている。  
 ・全スタッフが年間を通じて、両親教室や4か月児健診、地域で行われている親子の集う場所に出向き、支援者との関係作りや地域情報の収集を行い、参加者に情報提供を行っている。また、支援者を通じて、拠点の紹介をはじめ情報収集提供の機能が地域の親子に周知されている。今後は、外国人が利用する施設へ拠点機能を周知していく必要がある。

③利用者の声を活かした取組み  
 ・「中区すくすくモバイル(※1)」をスマートフォン版へ移行し、利用者が情報を見やすくなるよう更新した。  
 ・「サポーターズ通信(※2)」発行において、利用者からボランティアを募り、企画会議から取材・編集まで主体的に関わっている。また、区内で様々な活動をしている担い手が情報の発信を行えるようにしている。  
 ・「ロコミファイル(病院情報、レシピ、アレルギーについて)」や「ホットおしゃべりサロン掲示板」を広場に設置し、利用者自身が経験した情報を発信出来るよう取り組んでいる。  
 ・外国語版おでかけスポットマップの作成に向け、拠点利用者へアンケートを実施し、その結果を活かし、中国語版のマップの作成を進めている。

※1携帯のサイトによる子育て情報配信システム(毎週配信) ※2のんびりんこが発行している通信(市内161か所へ発送)

評価の理由(区)

①子育て応援カレンダー等の拠点情報を窓口や健診会場、赤ちゃん学級にて配布した。また、おでかけスポットマップ作成に向けたアンケート(外国語版含む)を実施しニーズの把握に努めるとともに、外国語版「おでかけスポットマップ」の作成ができるよう調整を行っている。  
 ②合同園長会や主任児童委員、こんにちは赤ちゃん訪問員、子育て支援者等の連絡会などの場を活用し拠点の存在を周知することで、支援者をはじめ区民に拠点の役割を広く周知できるよう調整した。今後はより多くの地区連合町内会にて周知できるよう検討が必要である。  
 ③のんびりんこ通信やサポーターズ通信を窓口や健診会場に設置し、配架方法を改善しながら利用者も情報発信できる機能の周知を行った。また、養育者や担い手と積極的に交流できるよう、各関係者会議や赤ちゃん学級、4か月児健診に加え、リーダー研修等を通して地域の子育てサークルへも拠点スタッフが参加できるよう調整した。

拠点事業としての成果と課題

(成果)  
 ・地域に出向き、施設や団体、関係者との関係作りを行う事で支援者との良好な関係を築き、拠点機能の周知の一端を担っていただく事が出来ている。  
 ・身近なニーズを受け止め当事者の声を活かし、発信できるよう取り組んでいる。

(課題)  
 ・外国人へ向けた情報収集・提供の仕方については検討し取り組んでいく必要がある。  
 ・当事者が情報を入手出来る場の開拓をさらに進め、より多くの区民へ情報が届くよう取り組んでいく。

振り返りの視点

- ア 養育者や担い手が必要としている情報が何かをとらえ、区内の幅広い地域の子育てや子育て支援情報を収集・提供しているか。
- イ 来所が困難な養育者や担い手も含め、情報を入手しやすいよう、さまざまな媒体や拠点以外の場を通して情報発信しているか。
- ウ 利用者が情報を入手しやすく、自ら選べるひろば内の工夫をしているか。
- エ さまざまな子育て支援の場に出向いて収集した具体的な情報や、関係機関及びネットワークを通じて得た情報を養育者や担い手に提供しているか。
- オ 拠点の情報収集・提供機能を幅広く区民に周知しているか。
- カ 養育者や担い手から拠点に情報が届けられる仕組みや工夫があるか。
- キ 情報収集・提供の企画に養育者や担い手が関わる仕組みや工夫があるか。

4 ネットワーク事業

目指す拠点の姿	(参考)2期目振り返りの課題	自己評価(A~D)	
		法人	区
①地域の子育て支援活動を活性化するためのネットワークを構築・推進している。	・拠点と区がともにお互いの強みを活かし、子育て支援について地域との関係をさらに広めていく必要がある。	A	A
②ネットワークを活かして、拠点利用者を地域へつないでいる。		B	B
☆児童虐待防止推進月間について、広く地域に啓発出来ている。		A	A

評価の理由(法人)

(主なデータ)  
 【H30年度ののんびりんこに関するアンケート】支援関係者アンケート(109人)  
 のんびりんこの「ネットワーク事業」について知っている 90.8%  
 【R1年度ネットワーク会議参加状況】  
 育児支援会議、保育施設等合同園長会、子育て支援者定例会、子ども食堂ネットワーク会議、セーフティーネット会議、要保護児童対策連絡会、関内地区計画運営推進会議、子育て世代包括支援センターネットワーク等  
 【R1年度協働事業実施内容および実績】  
 保育園(どろんこ遊び、水遊び、からだ遊び)、横浜市幼稚園協会中支部(幼稚園説明会)、地域ケアプラザ・ヘルスマイト(食育講座)、歯科医師会(むし歯予防講座 年2回)、スポーツセンター・地域ケアプラザ(体験ツアー)、みなと赤十字病院(食物アレルギー講座等 年2回)、みなと総合高校(高校生と遊ぼう 年2回)、日本赤十字社神奈川支部(幼児安全法講座 年2回)  
 【R1年度オレンジリボンキャンペーン啓発実施場所】  
 中央・北地域のYMCA施設(保育園、高齢者施設、学童保育施設、スポーツクラブ、地域ケアプラザ、英語学校、専門学校等)

①地域の団体との連携

・関係者、関係団体とのネットワーク会議を通し、各団体・施設の機能や役割をはじめ、地域情報や課題の共有を行い連携の促進に取り組んでいる。  
 ・地域や施設、団体と事業を実施し、振返りを通して親子のニーズや支援方法の課題の共有を行い、改善しながら継続的に取り組んでいる。

②利用者を地域へ繋ぐ取り組み

・スタッフが地域で行われている子育て支援の場に出向いて得た情報を活用し、利用者を地域の活動へつなぐとともに、利用者が地域とつながるきっかけとなるよう施設や団体と協働で事業を実施している。  
 ・子育て応援ボランティアの募集を継続的にを行い、子育て支援活動に関心のある方に拠点内外の様々な活動の場を紹介するとともに、保育園のニーズを把握し、地域の保育園にボランティアとして紹介している。  
 ・すくすくモバイルやひろばでの子育てサークル周知、事業実施の際に子育てサークルのメンバーが事業参加者に直接PRできる機会を設けている。また、子育てサークルのリーダー研修会を区や関係者と共に実施し、当事者の声を聞きながら、ニーズに合わせた支援を行っている。

☆虐待防止推進月間の取り組み

・オレンジリボンキャンペーンを区や法人と共に取り組み、広く啓発を行った。ひろばにおいて、利用者からのメッセージカードを当事者同士の支え合いとして、互いに読み合うことが出来るよう掲示し、虐待防止の啓発と共に日頃の子育ての喜びや励みになるよう取り組んだ。

評価の理由(区)

①地域の関係機関団体との連携を強化できるよう、保育施設等合同園長会・子育て支援者・こんにちは赤ちゃん訪問員・主任児童委員・地域ケアプラザ等の定例会への参加調整を行った。また、妊娠期から切れ目のない支援について検討するために区と拠点で子育て世代包括支援センターネットワーク連絡会を開催した。  
 ②・リーダー研修を協働で実施し、子育てサークル活動を両方で支援することで、養育者が地域につながるためのネットワークづくりができた。  
 ・拠点が様々な関係機関会議や定例会へ参加できるよう調整を行っている。今後、より多くの関心のある方が地域の子育て支援活動につながる事が出来るような方法を検討していく必要がある。  
 ☆毎年11月の児童虐待防止推進月間の啓発活動に向け、子育て団体や区民利用施設・民間施設(ハッピーローソン)に協力を仰いだ。また、拠点と共にひろば内のパネル展示や啓発方法の検討を行った。今後、子育て団体や区民利用施設・民間施設(ハッピーローソン)への協力を拠点と共に行っていけるとよい。

拠点事業としての成果と課題

(成果)

・様々な会議を通してネットワークの構築や推進が図られている。また、関係団体と事業を協働で行い、継続的かつ日常的な関係づくりが出来ている。  
 ・子育て応援ボランティアの募集を行い、子育て支援活動に興味や関心のある人に対して活動の場を提供すると共に、地域の保育園へも繋げる事が出来ている。

(課題)

・妊娠期から切れ目のない支援の充実が図られるよう、更なるネットワークの構築を進めていく必要がある。  
 ・子育て応援ボランティアについては、地域の子育てを温かく見守る人をさらに増やしていけるよう、地域との調整を行いながら、活動の場をさらに広げられるよう取り組んでいく。

振り返りの視点

- ア 子育て家庭や地域の子育て支援関係者のニーズを踏まえ、連携促進に取り組んでいるか。
- イ 地域の子育て支援関係者が、互いに知り合い、理解し、子育て家庭の状況及び子育て支援の情報や課題を共有するための場、機会をつくりだしているか。
- ウ 地域の子育て支援関係者が協力し、支え合えるように、関係者同士をつないでいるか。
- エ 養育者を身近な地域の子育て支援の場につなげているか。
- オ 子育て支援活動に関心のある方を丁寧に受け止め、必要に応じて身近な地域の活動へつないでいるか。

5 人材育成・活動支援事業

目指す拠点の姿	(参考)2期目振り返りの課題	自己評価(A~D)	
		法人	区
①地域の子育て支援活動を活性化するため、担い手を支えることができている。	・地域の中で子育て支援の裾野を広げられるよう、祖父母世代への働きかけを継続する必要がある。また、区と連携し、自治会・町内会への関わりを深め、学齢期の子がいる親に向けた取組を着手する必要がある。	A	A
②養育者に対して地域活動の大切さを伝えるとともに、地域の子育て支援活動に関心のある人が、活動に参加するきっかけを作っている。		A	A
③広く市民に対して、子育て家庭を温かく見守る地域全体での雰囲気づくりに取り組んでいる。		B	A
④これから子育て当事者となる市民に対して、子育てについて考え、学び合えるように働きかけている。		A	B

評価の理由(法人)

(主なデータ)  
 【R1年度研修実施内容(参加数)】  
 支援者対象:「幼児安全法(26人)」「中華文化圏の子育てについて(33人)」※毎年2回、地域で子育て支援に関わる方に声を掛けて合同研修を企画実施。  
 拠点職員対象:「子育て支援に活かす傾聴研修」「児童家庭支援センターみなと訪問研修」「子育て支援に関わる私たちに期待すること」  
 養育者対象:「安全ミニ講座(24名)」「サークルリーダー交流会(15人)」など  
 【R1年度ボランティア活動実績】  
 431件(延べ活動者数119人:うちシニアボランティア69人)

①地域の担い手を支える取組み  
 ・地域で子育て支援に関わる方(民生委員・主任児童委員、子育て支援者、こんにちは赤ちゃん訪問員、子育て応援ボランティア、中区保育ボランティアグループなど)を対象に定期的に研修を開催し、担い手同士の交流や活動の共有を図られるようにしている。  
 ・子育てサークルリーダー研修会において、サークル活動に活かせるよう各団体の情報交換や課題の共有を行い、担い手を支える取り組みを行っている。  
 ・子育て支援者定例会において親子の支援に活かせるよう、地域訪問で得た情報を提供している。

②新たな担い手を養成する取組み  
 ・子育て応援ボランティア説明会やよこはまシニアボランティアポイント事業などを活用し、子育て支援活動に関心のある方を受入れ、保育園やひろばのボランティア、横浜子育てサポートシステムの提供会員の活動につないでいる。  
 ・利用者が支える側への第一歩の経験をする機会として、のんびりんこサポーターズ活動※を実施している。  
 ・自治会・町内会を通じて、子育て応援ボランティアの周知を行い、説明会への参加につながった。

③子育て家庭を温かく見守る地域の醸成  
 ・子育て家庭を温かく見守る地域の雰囲気が醸成されるよう、児童虐待防止月間(オレンジリボンキャンペーン)やピンクシャツデー(いじめのない社会を目指す運動)、平和月間(平和について考える取組み)を行っている。今後は地域へ情報提供で出向いた際に、取り組みを周知し、さらに広く啓発していく。

④次世代育成  
 ・両親教室で拠点の情報提供を行う事で、拠点を利用するきっかけづくりを行っている。また、拠点において沐浴体験を定期的実施。ひろば利用者との交流を行い、互いに子育てについて学び合う機会を持てている。  
 ・小学生から大学生、留学生等、様々な世代や国の学生が拠点に訪れ、見学や実習、ボランティア体験等の交流を通して親子と関わり、子育て支援や子育て家庭に関心を持てるよう、またお互いが学び合えるよう機会を設けている。

※利用者の趣味や特技、経験を活かした活動を楽しむとともに、利用者同士でリフレッシュや仲間づくりをしながら互いに支え合う活動。

評価の理由(区)

①支援者定例会等を通じて研修や運営の工夫等ニーズに沿った支援者のスキルアップ支援を行っている。  
 ・子育てサークルリーダー研修等でサークル会同士の交流をはじめ、運営の方法や地域のニーズ、課題の共有を図っている。

②赤ちゃん学級において保健師・子育て支援者・拠点スタッフ等が、子育てサロンをはじめ、子育てに関する地域情報を紹介し、参加・関心を持つきっかけを作っている。また、区が持つネットワーク(要対協地区別連絡会等)を活用し、地域の子育て支援活動の重要性について啓発している。

③オレンジリボンキャンペーンを通して、子育て家庭を温かく見守る地域全体の雰囲気作りに取り組んでいる。また、広報よこはま区版で年間を通して地域の子育てサロン等を紹介し、広く地域全体に周知している。

④子育て世代包括支援センターの開始に伴い、妊娠期からの切れ目のない支援について効果的な内容を検討している。(外国人ママ向けの両親教室の検討、妊娠期から拠点につながりを持てるような両親教室のプログラムの工夫等)

拠点事業としての成果と課題

(成果)  
 ・継続的に自治会・町内会へ子育て応援ボランティアの周知を行い、地域の子育て支援活動に関心のある方を受け入れ、ひろばにはボランティアが日常的に関わることができた。また、保育園や子育てサポートシステム提供会員にもつなげ、子育て家庭を温かく見守る地域全体の雰囲気作りに取り組んでいる。  
 ・地域の子育て支援に関わる方々との研修会を定期的実施し、担い手を支える取組みを継続して行っている。  
 ・養育者が地域活動に積極的に関わることが出来るよう、拠点で支える側の活動体験をする機会を継続的に設けている。

(課題)  
 ・子育て家庭を温かく見守る地域の更なる醸成を目指し、拠点で取り組む事業を地域へ向けて発信し、広く啓発していく必要がある。  
 ・区民に地域活動の大切さを伝え、さらに活動参加へ繋げるには、地域の特性を活かした取組みを行っていく必要がある。

振り返りの視点

- ア 子育て家庭や担い手のニーズを踏まえ、活動意欲の向上やスキルアップにつながる取組がなされているか。
- イ 地域の子育て支援活動がより充実されるよう、必要に応じて新たな活動希望者を結び付けているか。
- ウ 新たな担い手を発掘・養成する取組がなされているか。
- エ 活動希望を丁寧に受け止め、拠点内の活動や身近な子育て支援活動等に結び付けているか。
- オ 養育者が地域を身近に感じ、地域の活動に関心を持てるように働きかけているか。
- カ 地域で子育て支援に関わる人が増えているか。
- キ 子育ての現状や子育て支援の必要性を周知・啓発しているか。
- ク 子育て家庭(妊娠期の方を含む)を温かく見る気持ちを持つことができるように働きかけているか。
- ケ これから子育て当事者となる市民と子育て中の親子がふれあい、学び合う機会や場を作っているか。

6 横浜子育てサポートシステム区支部事務局運営事業

目指す拠点の姿	(参考)2期目振り返りの課題	自己評価(A~D)	
		法人	区
①子育てサポートシステムに、多くの区民の参画が得られている。	・更なる提供会員の確保に向け、子育て応援ボランティアの募集と絡め、自治会・町内会や学齢期の子のいる家庭への働きかけにも着手する必要がある。	A	A
②養育者にとって、必要な時に利用しやすい事業となっている。		A	A
③会員が地域の支え合いの良さ、大切さを理解しながら、利用や活動を継続できるように、支えることが出来ている。		A	A
④養育者の利用相談内容に応じて、子育て相談や他機関等の情報を提供し、必要な支援につなげている。		A	A
<b>評価の理由(法人)</b>			
(主なデータ)会員数 H28年3月:利用会員415人、提供会員60人、両方会員33人 R1年3月:利用会員581人提供会員77人、両方会員38人 ひろば預かり件数 (27年度:151件→R1年度:361件) 援助活動数(延べ数) H27年度:利用者数525人、提供者数301人(援助活動件数2,660件) R1:利用者数862人、提供者数421人(援助活動件数3,351件) 依頼件数 H27年度:140件→R1年度:285件 入会説明会参加者数 H27年度:233人→R1年度:282人(個別入会説明 H27年度:26件→ R1年度:55件)			
<b>①拠点内外へ向けた周知</b> ・ひろばに関わるスタッフ、ボランティア、子サポ(※横浜子育てサポートシステム:以下子サポ)の提供・両方会員について名札のストラップを色分けし、スタッフボードを掲示した。また、ひろば預かりを行うことで、拠点利用者が子サポの具体的な活動の様子を知るきっかけになっている。 ・赤ちゃん学級、両親教室にて周知を行う他、幼稚園園長会、保育園園長会、小学校・中学校校長会、中区PTA連絡協議会、中区連合町内会を通じて、会員募集について周知し、会員数の増加につながった。 ・保育園を訪問し、子サポの周知を行うことで実際の活動につながった。			
<b>②緊急の依頼に対する個別対応</b> ・緊急性の高い依頼や個々の状況に応じて、個別入会説明を行っている。また、依頼内容に応じて丁寧に対応し、コーディネートしている。 ・来館が難しい養育者に対しては、訪問による個別説明を行っている。また、オンラインを活用した対応にも備えている。 ・地域の見守りが必要な家庭の状況やニーズを把握し、関係機関との連携を図りながら、臨機応変に対応している。			
<b>③相互援助活動を支えるきめ細やかなフォローアップ</b> ・提供、両方会員交流会を定期的に開催し、会員同士の交流や情報交換・課題の共有を行い、活動の意義を感じながらサポート活動ができるようにした。また、定期的に日ごろの活動の様子や状況を聞き取り、丁寧に対応している。さらに、活動に生かせる研修(幼児安全法・傾聴・発達障がいについてなど)を毎年行い安心して活動が行えるようにしている。 ・初めて子サポを利用する会員が安心して利用することができるよう、ひろばでのお試し預かり期間を年3回設け、その後の利用につなげている。また、活動の前後において利用者の気持ちに寄り添い、丁寧に関わりを持つように心がけている。			
<b>④相談内容に応じた適切な対応</b> ・子育て相談や支援が必要となる家庭には、利用者支援事業と連携し丁寧に対応している。 ・子サポでの対応が難しい依頼や、他の支援が活用できる依頼について情報提供が出来るよう、一時預かり施設(病児保育や企業主導型保育事業)や送迎サービス(ガイドヘルプサービスや子育てタクシー)などの情報収集を行い、必要に応じて提供している。			
<b>評価の理由(区)</b>			
①各地区町内会、こんにちは赤ちゃん訪問員定例会、小学校・中学校校長会、保育園園長会、主任児童委員会等にて拠点での相談受付や役割の周知を行い、学齢期の子のいる家庭など幅広い世代への働きかけを行うことができた。また、区の学齢期支援事業にて拠点紹介コーナーを設けることで、次世代の子育て当事者への周知の機会となった。今後も引き続き区の持つ地域活動ネットワークを活用できるとよい。 ②訪問や相談対応時に養育者のニーズを把握し、状況に応じて子サポの入会説明を受ける際に区職員が同行するなど、養育者が子サポを利用しやすいような対応の工夫を行うことで、必要な家庭の適切な利用につながった。 ③定例会にて個々の利用者の状況を確認した。また、丁寧な関わりが必要な世帯の利用の際には、直接つなぐなどのフォローを行うことで、双方の会員が安心して利用できている。個人情報に関しても、安全な取り扱いができるよう、必ず年1回個人情報取り扱いに関する研修を行っている。 ④定例会にて情報共有し、健診や教室等の事業を通じた区でのフォローなど、支援方針を拠点と共に検討した。また、特別な配慮が必要な場合には、他機関(療育センターや児童相談所、医療機関等)との連絡調整を行うことで、切れ目なく必要な支援につなぐことができた。			
<b>拠点事業としての成果と課題</b>			
(成果) ・地域へ向けて周知を行うとともに、拠点内でひろば預かりを実施することで会員数の増加につながった。また、遊び慣れたひろばでの活動を拠点利用者が目にすることで、子サポがより身近に感じられ依頼へとつながった。 ・地域の見守りが必要な家庭や緊急対応が必要な依頼に対応するなど、個々に応じてきめ細かな対応をしている。また、コーディネート後も会員に対して丁寧なフォローアップすることが出来ている。			
(課題) ・更なる会員の確保に向けて、周知を継続的に行う。また会員数の少ない地域については、特に周知の強化を図る必要がある。			

振り返りの視点

- ア 区民に対して、子育てサポートシステムについての周知活動を行っているか。
- イ 提供会員数拡大に向けた取組がなされているか。
- ウ 養育者に対して、必要時に利用相談しやすく感じられるような周知活動等の工夫をしているか。
- エ 会員が相互の合意のもとに気持ちよく安全に活動できるよう、会員の状況に応じた活動方法の提案や、丁寧なコーディネートができていますか。
- オ 会員の声の把握に努め、必要に応じて活動内容の調整や会員のフォロー、追加のコーディネート等を行っているか。
- カ 提供・両方会員が活動の意義を感じながら、安心・安全な活動を継続して行えるよう、研修会等の取組がなされているか。
- キ 会員の活動意欲を高めるため、会員間の交流をはかる取組がなされているか。
- ク 就労に関する以外の養育者のリフレッシュ等の理由での利用を促進する取組がなされているか。
- ケ 会員間で授受される個人情報を会員が適正に取り扱うことが出来るよう、注意喚起や研修等の取組がなされているか。
- コ 援助活動の調整等を通して把握した子育てに関するニーズを、必要な支援や新たな事業、事業の見直しにつなげているか。
- サ 専門的対応が必要と考えられる相談について、こども家庭支援課との連携、連絡体制のもと、適切に対応しているか。
- シ 子育てサポートシステム以外の子育てに関する相談に対して、情報提供等の支援ができていますか。



**7 利用者支援事業**

目指す拠点の姿	自己評価(A~D)	
	法人	区
①拠点における利用者支援事業が、区民や関係機関に広く認知されている。	B	B
②相談者に寄り添い主体性を尊重しながら、個別相談に応じ、適切な支援を行っている。	A	A
③子育て家庭を支えるためのネットワークの一員として、包括的な視点を持って子ども・子育て支援に関する関係機関や地域の社会資源との協働の関係づくりを行っている。	A	A

**評価の理由(法人)**

(主なデータ)  
 【H27年度ののんびりこアンケート(※1)】  
 子育てパートナーを知っている16.6%/相談したことがある10.5%/相談したことはないが相談したい13.5%  
 【H30年度ののんびりこに関するアンケート(※2)】  
 子育てパートナーを知っている19.4%/相談したことがある18.4%/相談したことはないが相談したい18.4%  
 ・のんびりこを利用したことがある人 子育てパートナーを知っている23.8%  
 ・支援関係者アンケート(109人)ののんびりこの「子育てパートナー」について知っている 88.1%  
 【利用者支援相談月報集計表】相談件数: 187件(H28年度)・312件(H30年度)  
 相談のきっかけ:  
 H28年度①相談継続(31.4%)②地域活動(26.6%)③拠点内巡回(18.6%)④拠点内(14.9%)  
 H30年度①相談継続(50.0%)②拠点内(31.1%)③地域活動(13.8%)④拠点内巡回(1.9%)

※1 回答者:のんびりこ利用者193人  
 ※2 回答者:のんびりこ利用者及び乳幼児健診受診者505人。その内、のんびりこを利用したことがある345人

**①拠点内外での周知**  
 ・チラシを作成し、拠点利用者や地域活動(赤ちゃん学級・子育てサロン・保育園幼稚園施設見学等)の訪問時に配布している。また、のんびりこ通信や中区すくすくモバイル、子サポ便り(子育てサポートシステム会員向け通信)等で来館困難者に対しても周知を行っている。  
 ・地域活動を定期的に行うとともに、拠点内事業(赤ちゃんと一緒におしゃべりタイム※や子育てサポートシステム入会説明会)に参加し直接周知する機会を増やし、気軽に相談できるような関係を作っている。今後はより多くの区民へ向けた周知をしていく必要がある。

**②相談対応に活かす取り組み**  
 ・子育てパートナーは常に傾聴の姿勢で相談者の対応を行っている。また、適切な支援や情報提供ができるよう、必要な研修(対人援助の基本・子どもの発達理解・虐待予防・産後うつ等)を受講して研鑽を積んでいる。  
 ・地域資源(保育園・幼稚園・障がい者支援施設・一時預かり施設・放課後児童育成事業所等)を訪問し情報収集のほか、関係づくりを進めている。また、訪問して得た情報を関係者と共有し、相談者へ適切な情報を提供出来るように取り組んでいる。  
 ・ひろばスタッフや子育てサポートシステムスタッフと日常的に連携することで、幅広く支援できるようにしている。

**③関係機関との関係づくり**  
 ・地域訪問や関係者との会議(子育て支援者定例会・育児支援会議・子ども食堂ネットワーク会議・セーフティネット会議等)への参加を定期的に行うことで、ネットワークを広げ関係を深めることが出来た。また、必要に応じて情報共有や連携を図ることも出来ている。

※2か月~1歳未満の親子を対象にした交流や情報交換の場

**評価の理由(区)**

①福祉保健センターからのお知らせや中区おでかけスポットマップに掲載するとともに、赤ちゃん学級や母子手帳発行時、窓口での出生連絡票提出時、こんにちは赤ちゃん訪問時に拠点紹介資料を配布し、広く周知した。今後は機能としての理解をさらに深めていく必要がある。また、より広く市民に周知するため、外国人については外国語版おでかけスポットマップを作成し、配布する。  
 ②毎月の定例会にて定期的に相談事例を振り返り、方針や役割などを確認することで、より適切な支援を行うことができた。  
 ③子育て支援者定例会や育児支援会議等の参加調整を行うことで、横浜子育てパートナーが地域の社会資源と顔の見える関係を築くことができた。

**拠点事業としての成果と課題**

(成果)  
 ・親子を多面的にサポートできるよう拠点内で連携し、幅広く支援できるようにしている。また、個別対応が必要な場合は関係機関と連携し、情報共有を行いながら対応している。  
 ・継続して地域活動を行うことにより顔の見える関係が出来、必要に応じて情報共有や連携を図ることが出来ている。

(課題)  
 ・より多くの区民に広く認知されるよう、周知方法について検討を重ね、継続的に取り組む必要がある。

**振り返りの視点**

ア 利用者支援事業を幅広く区民や関係機関に周知しているか。  
 イ 養育者に対して、気軽に相談しやすい仕組みづくりや工夫をしているか。  
 ウ 最新の情報を収集し、活用できるよう工夫しているか。  
 エ 相談に対しては、傾聴に努め、ニーズを把握して対応しているか。  
 オ 拠点内連携、関係機関への紹介・仲介・支援依頼等について、相談者が円滑に利用できるような対応をしているか。  
 また、専門的な対応を要する相談については、内容に応じて速やかに関係機関に紹介・仲介する等、適切な対応を行っているか。  
 カ 拠点内連携、関係機関への紹介・仲介後も必要に応じて役割分担を確認しながら継続的な関わりをもっているか。  
 キ 相談の対応状況や支援の適切さ、拠点内外での連携状況等について、多角的な視点から振り返りや検討を行っているか。  
 ク 拠点のネットワークを活用し、関係機関や地域の社会資源との関係づくり・関係強化を行っているか。  
 ケ 利用者支援事業の周知や個別相談等の取組を通じて、支援につながる新たなネットワークの構築を行っているか。  
 コ 把握した課題を関係機関等と共有し、拠点事業の充実や、必要な支援の調整や見直し、不足する資源の調整や提案につなげているか。

## 協働事業プロセス相互検証シート

### 1 事業計画段階

#### 【共有できたことや認識に違いがあったこと】

- ・定例会や毎月のカレンダー作成において、実施しているプログラムや今後の予定に関する情報共有を丁寧に行うことができた。
- ・お互いの立場や強みを理解し、役割分担について十分に議論を重ねたことで、円滑な事業実施につながった。

#### 【今後改善が必要と思われること】

- ・今後実施予定の事業について、引き続き、お互いの把握している住民ニーズを共有しながら、継続性のある事業を計画していく必要がある。

### 2 事業実施段階

#### 【共有できたことや認識に違いがあったこと】

- ・お互いの事業へ参加することで、実際の実施状況を知ることができた。また、こまめに連絡を取り合い情報共有を行っている。
- ・毎年の中間期にも事業の振り返りを行うことで、進捗状況を確認しながら下半期の取り組みに反映することが出来た。

#### 【今後改善が必要と思われること】

- ・拠点の役割周知について、より多くの区民へ発信できるよう、取り組んでいく必要がある。

### 3 事業の振り返り段階

#### 【共有できたことや認識に違いがあったこと】

- ・有識者を交えた事業評価に向けた振り返りや、協働協定書役割分担表の振り返り等を通し、お互いの役割や強み、課題について丁寧に共有することができた。

#### 【今後改善が必要と思われること】

- ・今後も継続してお互いの強みを活かしながら、課題の解決に向けて事業をより充実させる必要がある。